

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

※弘前の部分には支部名を書く

弘前  
段級

對馬  
聖峰



貢

獻

則

飲

食

不

推奨筆(花林)・推奨紙(無野半紙・桐)・推奨墨(玉品)



原帖



〔飲食不貢獻則〕 飲食貢獻せざれば、則ち (醴泉出づ)

〔飲〕 〔食〕 〔不〕 〔貢〕 〔獻〕 〔則〕

偏は右側を、旁は左側を揃える。偏の上下に余白を残す。旁は柔らかい線質で重心の取り方に注意して書く。

1・2画目の方向に注意し、2画目終筆は止める。良の上部は傘の中に入れ込み、長い縦画は背勢に。

1画目をあまり長くしない。2画目は1画目の右寄りから書き始める。3画目は筆圧をかけて太目に、安定させる。

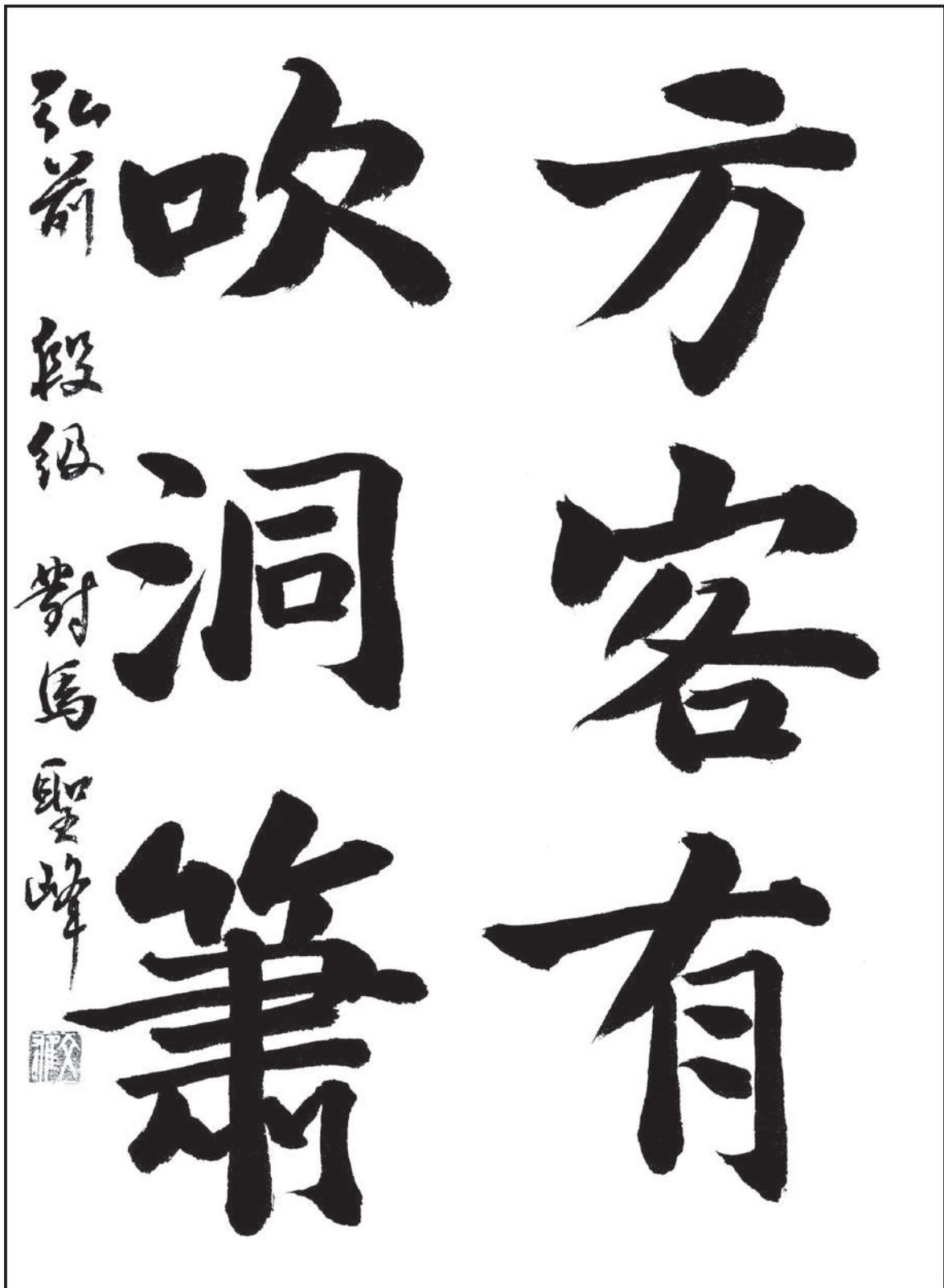
工は横広に、2画目が文字の中心となり、貝はやや右に置く。貝の左右縦画は背勢に、中の余白のとり方に留意する。

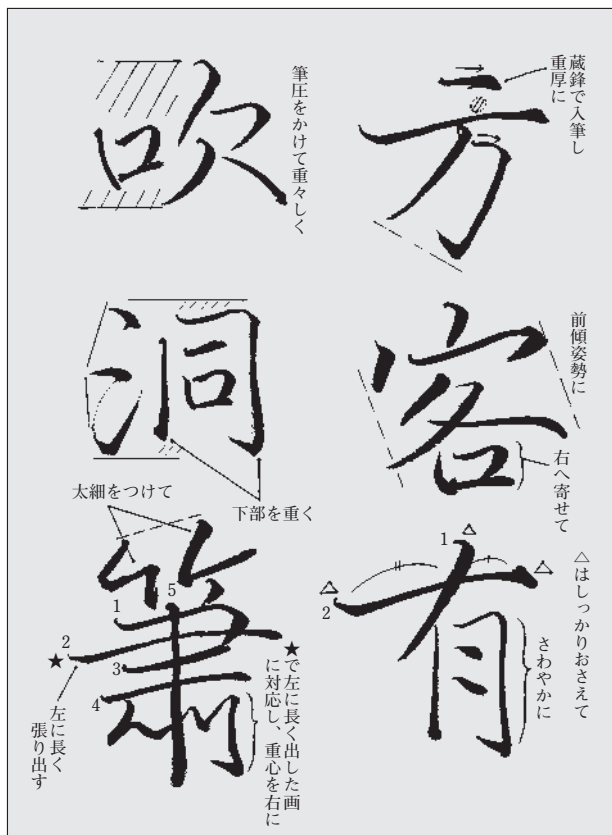
偏は画が込み入っているため、十分に鋒先を利かせ、余白に注意する(筆順は骨法を参照)。犬は縦長にまとめ、縦画を上部に長く出す。

貝の内部の余白に注意し、上下に余白を残す。最終画の長い縦画は、軽くうねりながら反る。

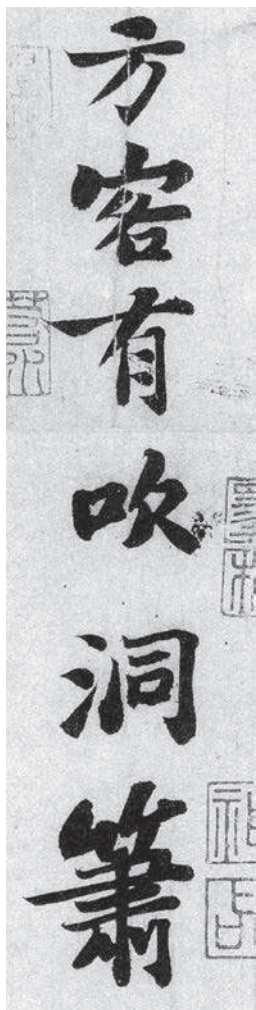
※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

※弘前の部分には支部名を書く





原帖



〔方客有吹洞簫〕（二）方に（望む、と）。客に洞簫を吹く（者）有り、

〔方〕

1画目の点は横方向に藏鋒で入筆し重厚に、2画目の入筆・終筆はどつしりと、中央部は細くすつきりと。下部は方向に注意する。

〔客〕

△は太目に左に寄せて、各の3画目を長く右に出す。□は右に寄せて、全体に前傾姿勢にまとめる。

〔有〕

1画目左はらいは、方向に注意し短く。2画目は左を長く、始筆・終筆はしつかりおさえる。月は余白に留意しさわやかに。

〔吹〕

位置に注意し、太目に小さくまとめる。□は上下に余白を残し、旁は扁平にまとめ、筆圧をかけて重々しく。

〔洞〕

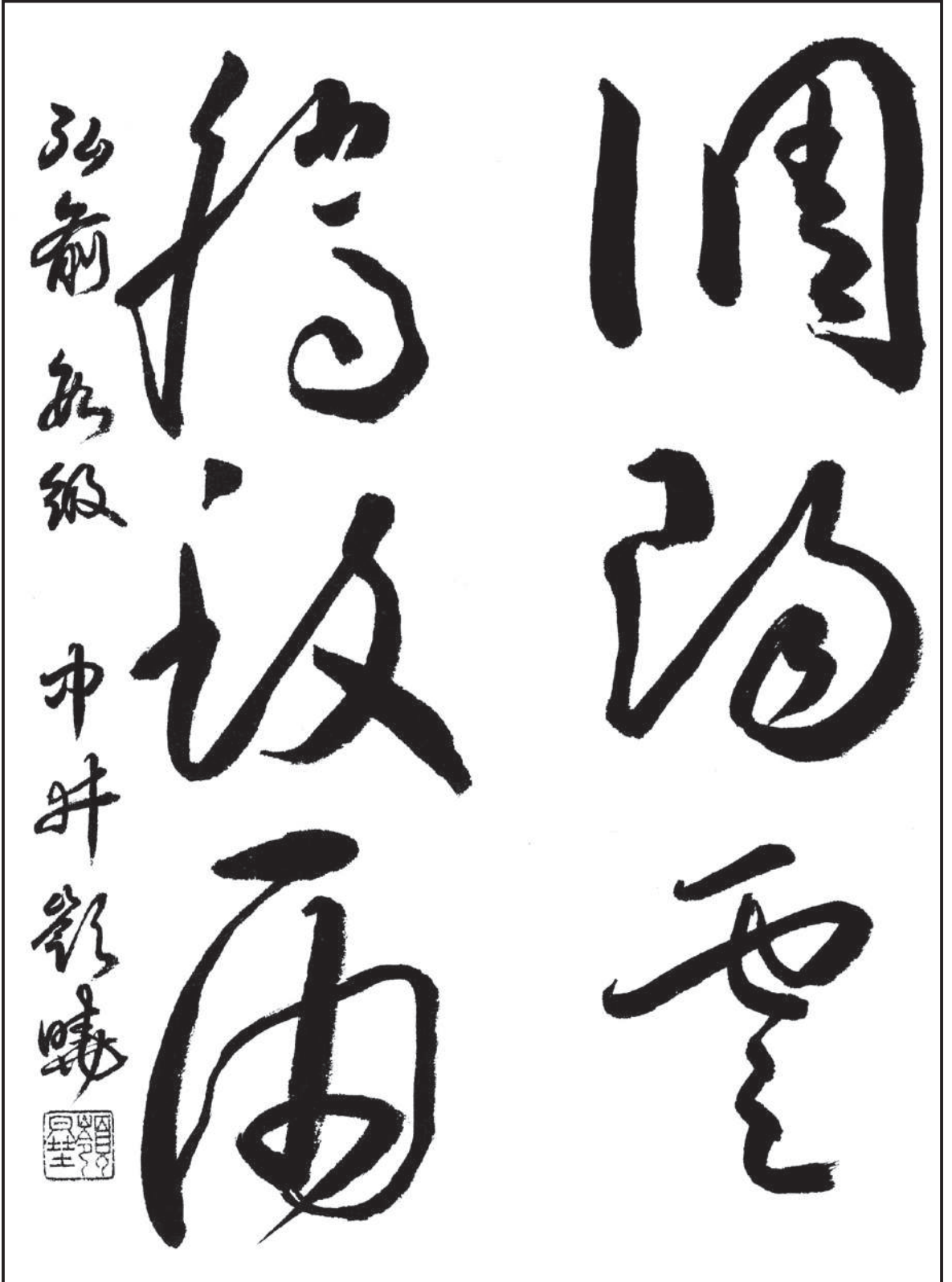
この字も小さめにまとめる。△はそれぞれの画の位置に注意し、リズムカルに。同の1・2画目終筆は重く。

〔簫〕

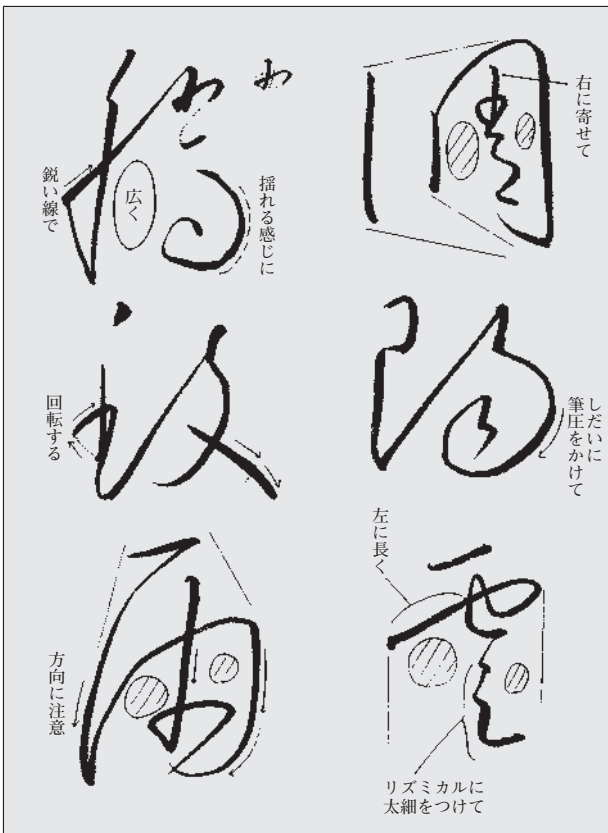
△は太細をつけ、大きさも変える。横画は細目に筆順と長さ配慮する。下部は小さくまとめる。

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

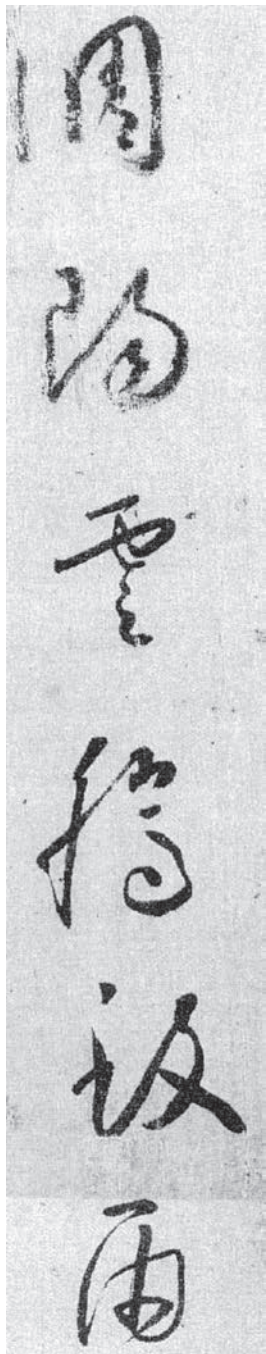
※弘前の部分には支部名を書く



推奨筆(四海)・推奨紙(無野半紙・桐)・推奨墨(玉品)



原帖



〔調陽雲騰致雨〕〔律呂は〕調陽す。雲は騰りて雨を致し、

〔調〕 〔陽〕 〔雲〕 〔騰〕 〔致〕 〔雨〕

言の省略は一本の縦線となり、偏と旁の間をほどよくあける。3つの縦画の微妙な変化に注意。内部の吉は細かい動きに留意する。

偏と旁の間を広くあける。旁は大きく回転し、内部の余白を広くとる。偏と旁の高さをほぼ同じにする。

上部を広く、下部で引き締める。下部を右に寄せて、左側の余白を広くあける。

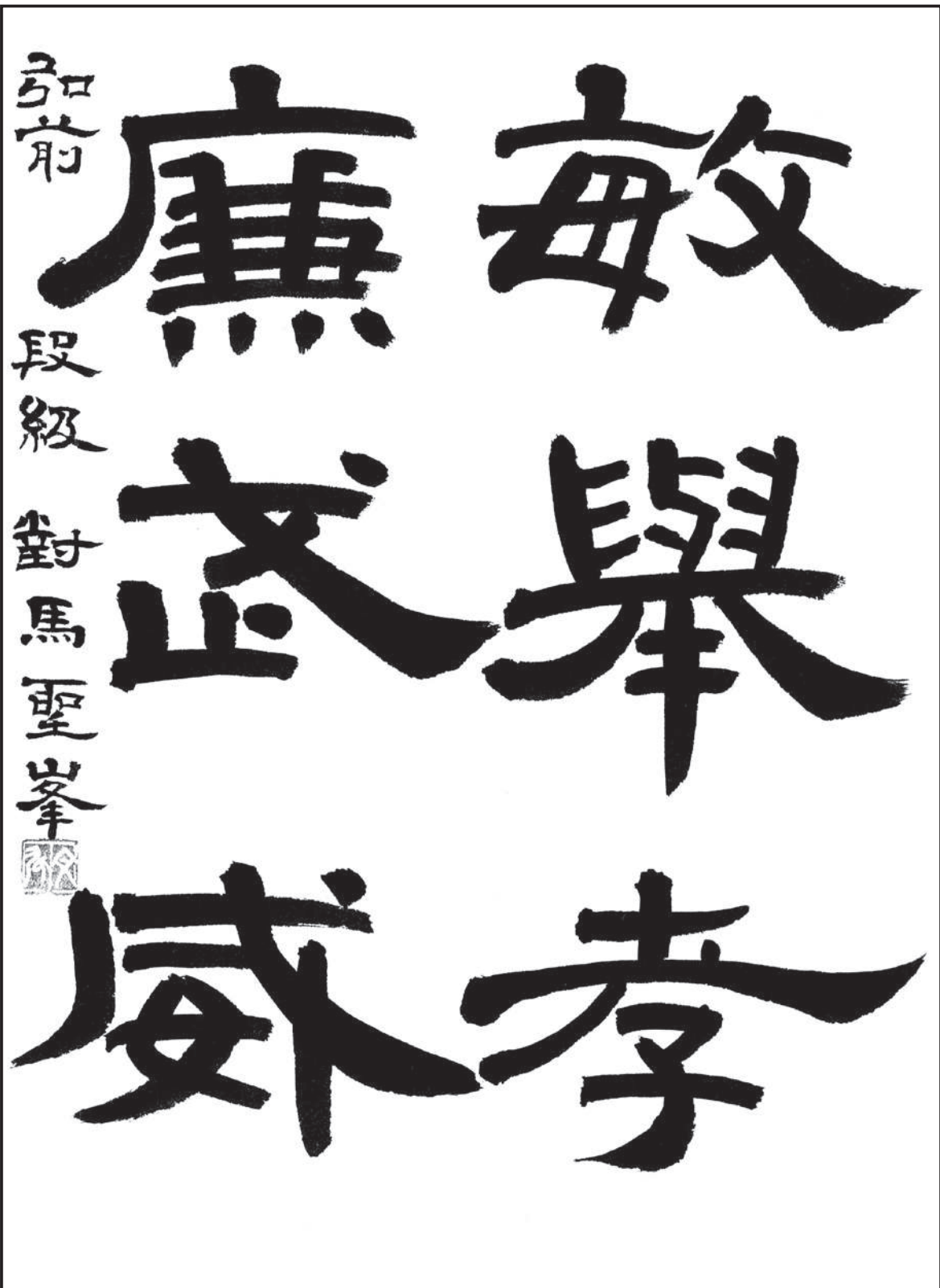
全体に縦長に、下部で広がる形にまとめる。偏は鋭く、旁との空間を広くあける。旁は筆脈を通して、細かい動きに注意。

偏の中間部分の筆の動きがわかりにくいので、骨法を参照してほしい。最終画は太目にして、全体を安定させる。

全体に下部で広がり、太細の変化をスムーズに。中の縦画は右に寄せて、左の余白を広くあける。

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

※弘前の部分には支部名を書く



推奨筆(四海)・推奨紙(無野半紙・桐)・推奨墨(玉品)



原帖



〔敏舉孝廉武威〕  
敏は、孝廉に挙げられ、武威(長史)

〔敏〕

偏と旁のつり合いに留意し、まとめる。偏の2画目は細く、終筆は軽い波磔で。旁は右はらいを主画として長く終筆は重厚に。

〔舉〕

全体に左右対称にまとめ、上部は細目に筆順に注意(骨法参照)。下部の左はらいの終筆は、押し込みとめて、右はらいは柔らかくはらう。

〔孝〕

思い切つて横画を長く、扁平にまとめる。主画となる横画はのびやかに、始筆と終筆の重さを対等にする。子には中に小さく収める。

〔廉〕

内部の画が多いので、縦横の間隔と筆順に注意する(骨法参照)。縦の部分は内側に傾けて、下部の点は軽く。

〔武〕

左側を縦に一線に揃え、2画目が主画となるので筆圧をかけて太く、方向に注意する。

〔威〕

この字も左側を控えめに、7画目が主画となり、次第に筆圧を書け、ゆつたりとはらう。

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

◎19頁に部分解説があります。

楷・行・草の三体字典からとっています。

弘前段級

三浦芳汀



孔

功

巧

広

甲

交

光

孔

功

巧

広

甲

交

光

孔

功

巧

広

甲

交

光

推奨筆(天開)・使用紙(中字用半紙)・推奨墨(玉品)

※弘前の部分には支部名を書く

# 漢字条幅漢詩課題

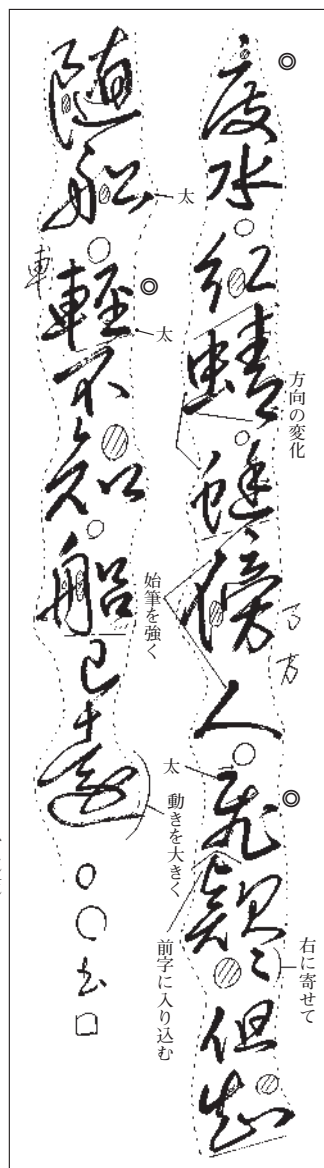
## A 漢字条幅部

※出品段級位(新級〜正師範)

書の生命は何と言っても作品が生きていることです。躍動感のある書、生きている書を書くことが最も大事なことだと思います。それには筆勢のあることが第一条件です。形がどれ程整っていても、型にはまった格好のよい字を並べても、良書とは言えないように思います。それでは、筆勢はどこから生まれるのでしょうか。それは運筆の緩急・筆圧・筆脈といったものが中心要素になっているようです。

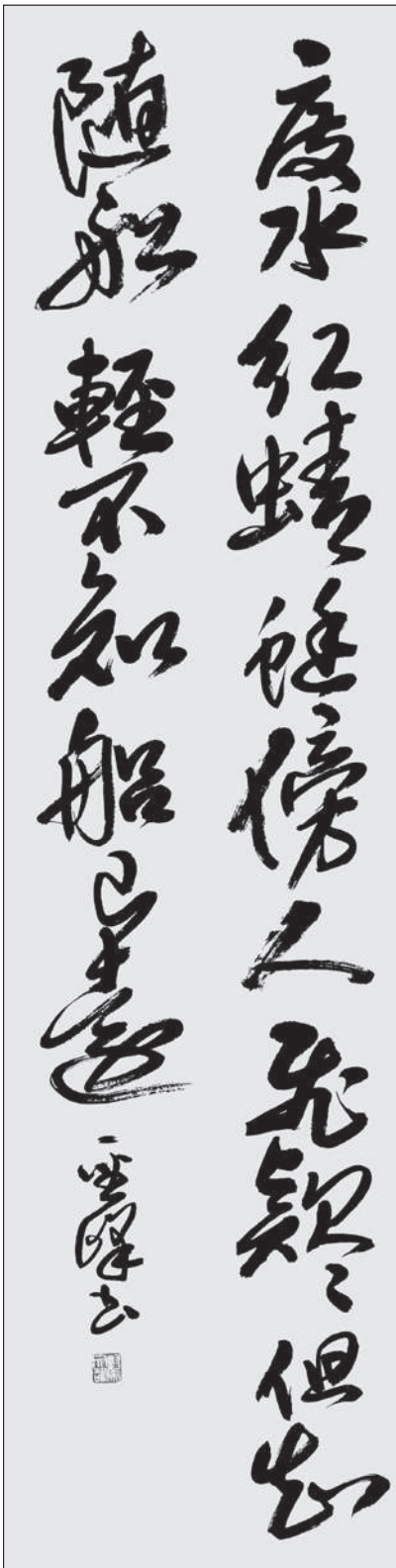
まず運筆の遅速ですが、一本の縦画・横画をひくにしても起筆から終筆に至るまで、その間の遅速は一定ではありません。運筆の遅速によって軽妙な味わいの線も出来ます。直線は速く、曲線は速度が落ちます。概して言えば、筆に墨量の

多いところは遅く、墨量が少なければ早くなります。その辺の要領は、やはり練習していく中で、自分のリズムが確立してくると思います。『書かれる皆さんが取り組みやすい作品をと考えています。字と字を繋げる連綿が難しいとか、画数の少ないものが書きやすいなどと聞きまです。そんなことを思い書いたのが本作です。ただ偏と旁が続いたのが有り(1行目4字・2行目3字)、ここは脈絡を切らさないよう振幅をつけて下さい。』(『内は對馬聖峰先生より)



推奨筆(白神)・推奨紙(漢字条幅用紙半切)・華心箋(書云呉竹(固型))

### 對馬聖峰書



半切(約136×約35センチ)

半切検定課題原寸大手本 500円で販売しております。

〔度水紅蜻艇 傍人飛款款 但知隨船輕 不知船已遠〕梅克心

(◎印は墨つき)

読み―水を渡る紅蜻艇、人に傍いて飛ぶこと款々たり。但だ船の輕きに隨うを知りて、知らず船の已に遠きを。意味―水を渡つてゆく赤とんぼ、人にそつてゆつくりと飛ぶ。ただ輕い船についてゆくことを知つて、

船がもう遠くなつたことを気づかない。

揮毫動画を配信しています



#### 注意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

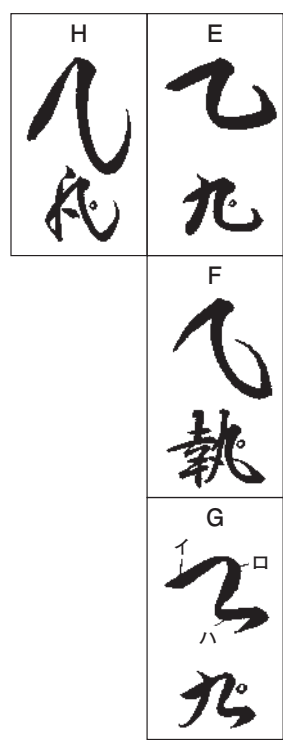
B

漢字条幅部  
※出品段級位(新級〜正師範)

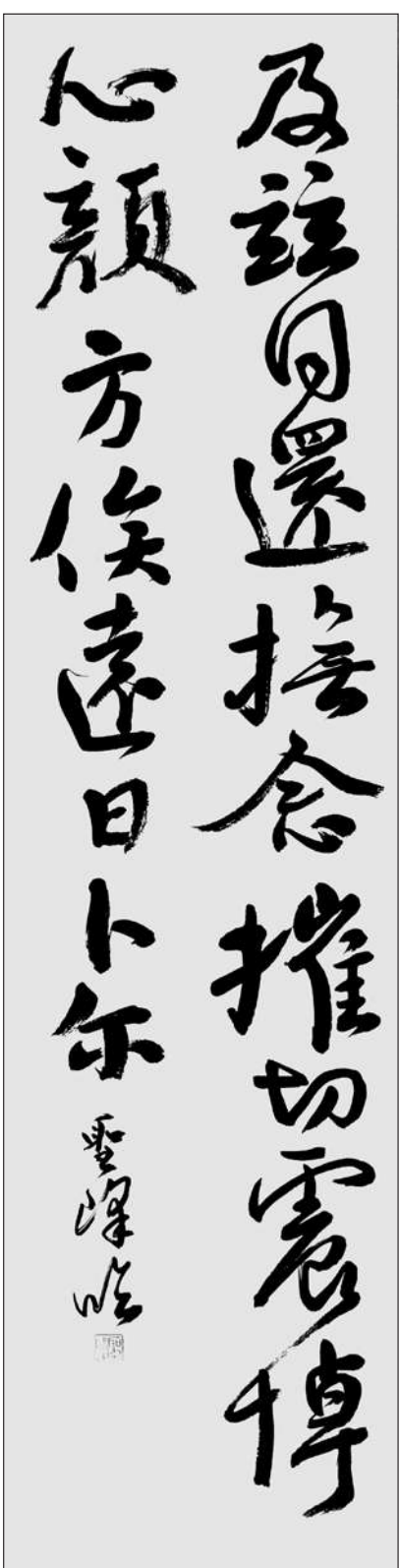
◆顔真卿(祭姪文稿)

◎行書の基本点画の変化

第二十二 背抛(その二)



對馬聖峰臨



〔及〕茲同還 撫念摧切 震悼心顔 方俟遠日卜爾 (◎印は墨つき)

読み―茲に及び同に還る。撫念摧切、心顔を震悼す。方に遠日を俟ちて、爾の(幽宅を)卜せんとす。  
意味―ここにともに帰還した。哀れに思う気持ちで胸がはりさけ腸がちぎれ、死をいたんで心と顔をふるわせるのである。  
ここに遠日をまつて、汝が安らかに眠る家を占い定めようとしている。

推奨筆(神技北斗)・推奨紙(漢字条幅用紙半切・梅花箋)・推奨墨(書芸真竹(固型))

注意  
漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。  
なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。  
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

半切(約136×約35センチ)  
半切検定課題原寸大手本  
500円で販売しております。

E以下は小背抛。Eは○の所は短くし折れてから長めにとる。Fは縦画部はAD(前月号参照)等と同じで、縦戈(R7、4月号参照)の意気で引く。Gは□は縦画の、ハは横画の各緩急の筆致を以て作る。Hは横画部を強い右上がりとしたことと、終筆を右上方にすくい払ったことに特長がある。

# 漢字条幅初等課題

漢字条幅部  
※出品段級位(新級〜準三段)

夏といえばお祭りといール!! でしょうか(笑)。青森は、ねぶた祭りが終わると同時に秋風が吹くと言われる位、短い夏ではありますが、今年30年前に購入したブルーベリーが例年以上に実り、毎朝の楽しみの一つです。恵みに感謝。

さて今月はひと足先に、秋の夕暮れの風情を思い浮かべながらゆったりとした気持ちで書きました。

3字・2字の文字群。秋から静までは腕を大きく動かし身体で書いてみましょう。晩は引き締めて。

〔秋〕 ・含墨充分にして一気に書く。



推奨筆(心月)・推奨紙(四半切華心箋)・推奨墨(書芸真竹(固型))

津島春汀書



四半切 (約68×約17.5センチ)

初等課題原寸大手本300円

〔秋雲静晩天〕 呉均

◎印は墨つき

読み―秋雲晩天に静かなり。

意味―秋の雲が、夕暮れに静かに垂れこめている。

## 注意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の方は新とお書き下さい。支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。



(四半切)

秋に一番似合う花といえば菊を思い浮かべます。ここ本部事務所のお隣さんに吉田さんという方がおられました。今は残念ながら亡くなりましたが、大輪菊を育てていて満開に咲いた豪華な花を、玄関前に持つてきて自慢げに飾ってくれました。弘前城公園の秋まつり、菊と紅葉祭りにも出品するくらいなので、素人目にも大層立派なものです。そうそう、以前に寝台特急「日本海」に乗って和歌山まで書の研修に行った今本珠峰先生も、菊の栽培を趣味にしていることを楽しそうに話してたことも思い出します。花言葉は「高貴」「高尚」「高潔」に頷けます。

菊花壽(菊花の寿)  
菊花のことほぎ。9月9日という語。

5月号 優秀作品



(半紙)

伊藤照峰

◎すつかり張瑞図が板についたようで、落款を見るまでもなく照峰さんだと分かった。特徴は出ているが空は瑞図にしては甘い。



(半紙)

小池彩霞

◎参考作品の「中庸」を草書体にアレンジし成功した作。他の出品者の中にも行書や隸書も有り、充分に楽しめた。

出品者  
(順不同)

- 阿部 晶 逕
- 高橋 虹 風
- 高橋 宏 三
- 柳谷 玄 海
- 小山内 城 雲
- 村田 秋 晴

出品規定

1. 締切 令和7年10月10日(9月号例月作品に同送可。その場合、別封筒に入れて「書作品を書こう」と書いて同送のこと)
  2. 発表表 令和8年1月号
  3. 規定用紙 四半切(17・5×68cm) 漢字(1人1点ヨコ)
  4. 優秀作品1点だけ紙上にて発表(批評コメントつき)その他は番号のみ発表
  5. 段級位に関係なく誰でも出品可
  6. 返送不可
- ※出品は掲載している同作品または、当月規定用紙であれば自由作品も可。ただし、参考作品が漢字の時は漢字作品を、調和体の時は調和体作品を出品して下さい。

※作品左下に姓号を鉛筆で記入して下さい。タテ・ヨコを間違わないように。

9月号		ペン楷書課題 (ペン部)			三浦景秀書	
支 部 名						
学 年						
段 級 位	初めての人は新と書く					
氏 名						
	サミュエル・ピープス	ことである	不思議な	仲よくなるのは	みんなが	いい食事をすると

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価550円

(万年筆・プレピール・硬筆用紙6行使用)